

女子大学生の就職活動経験：

男子大学生と比較して

平成 28 年 2 月

男女共同参画を国際的視点から考える会

代表・報告書執筆者：伊藤大将（国際機構留学生センター特任助教）

（以下、アルファベット順）

深川美帆（国際機構留学生センター准教授）

小島荘一（国際機構留学生センター特任准教授）

Aida Mammadova（国際機構留学生センター特任助教）

苗田敏美（非常勤講師）

斉木麻利子（国際機構留学生センター教授）

目次

1. はじめに.....	1
2. 文献レビュー	1
3. 調査方法.....	2
3-1. アンケート	3
3-2. インタビュー	3
3-3. 観察.....	4
4. 結果.....	4
4-1. 人生設計.....	5
4-2. 仕事に求めるもの	9
4-3. 身だしなみ.....	14
4-4. 面接.....	14
4-5. 大学の評判.....	17
4-6. サークル・部活動.....	18
4-7. 情報収集.....	19
5. 結論.....	19
Appendix A : 資料 3-1 アンケート様式 (大学生対象)、	22
Appendix B : 資料 3-1 アンケート様式 (専門学校生対象)	27

1. はじめに

日本の就職活動は、国際的に見てもとてもユニークである。欧米では企業は現従事者が仕事を辞めてポストが空いたときに、それを埋めるために求人を行う。よって新卒であっても個人が仕事を始める時期はバラバラであるし、職務を遂行できる人が即戦力として雇われる傾向にある。就職活動の時期は限定されておらず、随時進行中なのである。一方、日本では新卒を一斉に雇うため、就職活動の時期や仕事の開始日は大体決まっている。加えて、終身雇用の考え方が根付いているため、個人の能力だけでなく、転勤や長時間労働の可否、今後の人生設計等、仕事をしていく上で間接的に関わってくる要素も審査の対象となっている。

日本の女性の労働の仕方の特徴として、M字カーブがよく取り上げられる。主に育児に従事するため、30歳から39歳の女性の労働力が下がるのである。企業側としては、女性は仕事をやめるから、女性に投資をしたくない等の理由を挙げて、女性の主に総合職への雇用に敬遠しがちであったし、今でもその傾向は残っている（青島 2007；女子就活ネット 2015）。

2015年12月に閣議決定された第4次男女共同参画基本計画には、「働きたい女性が仕事と子育て・介護等の二者択一を迫られることなく働き続け、その能力を十分に発揮することができるよう、ライフイベントに対応した多様で柔軟な働き方等を通じた仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）や、パートナーである男性の子育て・介護等への参画等の実現が喫緊の課題となっている。また、性別を理由とする差別的扱いやセクシュアルハラスメント、妊娠・出産・育児休業等を理由とする不利益取り扱い（以下「マタニティハラスメント」という。）等の根絶、男女間の賃金格差の解消等、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保が不可欠である。」と書かれている。

女性が継続して仕事をしていくことが期待される現在、就職活動中の女子学生はどのように職業選択を行い、自分のキャリアとプライベートの生活について考えているのだろうか。本研究では、就職活動を終えた、あるいは活動中の女子学生と男子学生を比較することで、就職活動において女子学生が差別的な扱いをされていないか、されているならどのようなものなのか、またどんな考えを持って仕事選びをしているのかを調査する。

2. 文献レビュー

女性と就職活動について分析している論文や著書に加え、本研究では就職活動中の女性にアドバイスをしている本のレビューもした。

女性の働き方を考える上で大切なのが、ワーク・ライフ・バランスである（青島 2007）。この話題は就職活動をする女子学生向けに書かれたアドバイス本でも繰り返し出てくる。言い方を変えると、結婚をして子供ができたらどんな風に生きていきたいのかを考えてから仕事選びをし、就職活動に取り組んだ方がいいというアドバイスをしている

(女子就活ネット 2015；ツカダ 2013；深尾 1994)。残業や転勤があってもいいのか(深尾 1994)、産前産後休暇や育児休暇が取れるかどうか(山口 2015)を女子学生は就職前に考え、チェックすべきなのである。白河(2012)は有名大学を卒業し、年収も高い女子社員が出産を機に専業主婦になっている事例を挙げ、育児休暇の制度があるかどうかだけではなく、育児休暇を取れる風土があるかどうかをチェックするようアドバイスしている。

女子学生向けの就職活動アドバイス本では、身だしなみに関する項目も多く、服装や持ち物から髪スタイル、化粧の仕方に至るまで写真を使ってとても丁寧に説明されている(女子就活ネット 2015；深尾 1994；山口 2015)。これは、女子学生は女性らしく、身だしなみに気を使うことが求められている。

面接に関して女性に特化した点では、「結婚しても仕事を続けますか」、「子供を産んだらどうしますか」といった質問に対する対応がある(女子就活ネット 2015)。こういった質問は男性にされることがないことから鑑みても、「女性は家庭」という伝統的な性別役割分業を基にした考えが未だに残っていることを示唆している(青島 2007)。深尾(1994)は「女子学生のための面接試験の答え方」という著書の中で、「お茶くみやコピーを頼まれたらどうしますか。」という面接での問いに対し、模範的な解答は「はい。もちろんやらせていただきます。お客様に気分よく商談を進めていただいたり、同僚の方々にリラックスしてもらうためにも無視できない、女性の心遣いを生かせるたいせつな仕事ですから。でも、それだけで一日が終わってしまうのでは困りますし、私への期待が雑用だけということにならないように、仕事の面でも頑張ります。」だとしている。逆に「男性と同等の世界で活躍しようとしてこの職種を選んだ...雑用をするために入社するつもりはありません...」や「お茶を入れたりコピーを取ったりという雑用は、どこの職場でもあることだと思いますが、それが女性だけの仕事になっているのはちょっと問題だと思います。必要ならば、誰でも性別に関わらず自分でやればいいことですし...」といった解答は、女性らしさを欠いている点で不適切だとしている。

その他、就職活動において重要なこととして、大学の評判、OB・OGとのネットワークといった点も指摘されている(筒井 2010)。企業によっては、どの大学の卒業生を採用したいか明確な取り決めがあるところもあるようであるし、地域によってどの大学を好むかには違いがある(石渡 2015；女子就活ネット 2015)。OB・OGとの交流から外側からでは得られない情報を得たり、仕事の内情がわかったりして、有益な点があるようだ(女子就活ネット 2015)。

本研究ではこういった点を踏まえて、データの分析をし、結果の報告をしていく。

3. 調査方法

本研究は統計を使った量的調査法とインタビューと観察、自由回答式の質問を用いた質的調査法の両方を調査法として用いた。

3-1. アンケート

日米の先行研究を用いてアンケートを作成し、オンラインと紙媒体を使って回収した (Appendix A)。大学4年生からアンケートの回収を試みたが、4年生は学校に来る回数が少ないため、回収率が悪かった。補足として専門学校で歯科衛生士になるための勉強をしている女子学生からもアンケートを回収した。この学生は、すでに就職先が決まっており、特に就職活動をする必要もないため、アンケートの質問に変更がある (Appendix B)。

アンケートでは、仕事選びに際して重要視する事項は何であるか、自尊心、社会資本 (サポートをしてくれる人がどれくらいいるか)、就職活動中に感じた差別、今後の私生活と仕事の両立に対する態度を聞いた。

回収したアンケートは全部で70枚だったが、1人はアンケートに答えていない部分が多いため分析からは取り除いた。ただし、欠損値がある場合は数が減る。69枚の内、47枚が専門学校生である。男性は7名、女性が62名で、3年生が4人、4年生が18人だった。

3-2. インタビュー

女子学生3人と男子学生3人の計6人に対しインタビュー調査を行った。質問項目は事前に用意しておいたが、調査参加者には自由に話をしてもらい、流れを遮らないようにした。質問項目として用意したのは、就職活動の流れ、情報の仕入れ方、面接で聞かれた質問、ワーク・ライフ・バランスについて等がある。インタビューは45分から1時間20分ほどだった。

加えて、それぞれの研究協力者に感情マップを書いてもらった。横軸が就職活動の時系列で、縦軸が感情の起伏を表す。就職活動中にどんな出来事があり、どのような感情の起伏があったのかをとらえるのに効果的で、就職活動を線でとらえ、忘れていたことを思い出させる目的で行った。インタビューに参加してくれた人は次の人たちである。名前はすべて仮名を使っている。

- ① 鈴原さん：東海地方で公務員として働くことが決まっている。留学経験あり。男性。
- ② 佐藤さん：北陸地方で公務員として働くことが決まっている。サークル活動でリーダーの役割を果たしていた。女性。
- ③ 鈴木さん：公務員としての就職が決まっている。永久就職のつもり。法学。男性。
- ④ 堺さん：日本語を教える仕事に就くことが決まっている。女性。

⑤ 坂下さん：市役所で事務の仕事に就くことが決まっている。男性。

⑥ 吉田さん：就職支援の会社へ一般職で事務職での就職が決まっている。サークル活動を積極的にしてきた。女性。

3-3. 観察

学生を中心とする就職活動支援団体が就職活動をこれから始める大学 3 年生向けに OB・OG との交流イベントを開催した（今後は「就職活動イベント」と呼ぶことにする）。具体的には仕事の選び方や就職活動の仕方について学ぶイベントで、筆者はそのイベントに参加した。就職活動イベントでは OB・OG のパネルディスカッション、小さなグループに分かれての質問タイム、就職活動の「軸」（何を中心に就職活動をするのか。例えば、東京で就職したいという希望を持ち「就職場所」が軸となる人もいれば、土日は休みがいいという希望を持ち「休みの状況」が軸となる人もいる。）についての個別相談が行われた。筆者はこのイベントを観察し、誰がどんな発言をしていたのか、細かくメモを取った。イベントの開催時間は 3 時間程度であった。パネルディスカッションに参加した 3 名は次の人たちである。名前はすべて仮名を使っている。

① 小松さん：法学部を卒業し金融機関で働いている。個人相手に営業をしている。就職 2 年目。男性。

② 藤井さん：人文を卒業し東京で法人に対し IT 関係の営業の仕事をしている。就職 1 年目。女性。

③ 三井さん：2009 年に理工学部を卒業し、社会人 7 年目。大企業で働いた後、学校の先生を 2 年する。2016 年 4 月より起業する。男性。

本イベントへの参加者は 25 名ほどで、北陸にある大きな大学の 3 年生が大多数を占めた（イベントの主催者の中に就職活動をこれから始める 3 年生がいたので、参加者と主催者を兼任していた）。その他、工業大学の学生が数名と先に挙げた北陸にある大きな大学の 2 年生が 1 名参加していた。16～18 名が地元、北陸での就職を希望しており、県外での就職を考えている学生は 7～8 名だった。

4. 結果

本研究の結果は「人生設計」、「仕事に求めるもの」、「身だしなみ」、「面接」、「大学の評判」、「サークル・部活動」、「情報収集」という 7 点について報告していく。

4-1. 人生設計

本研究で女子学生と男子学生の間で顕著に差が出たのが人生設計（結婚や出産）と仕事の関係についてであった。女子学生は結婚後や出産後の働き方についてしっかりと考えているが、男子学生は特に意識して考えている様子は無かった。就職活動イベントにパネリストとして参加した藤井さん（女性）は就職活動中に自己分析をどのようにしたか聞かれ、お客さんに幸せをとということしか考えていなかったと言った後続けて、「女性として将来奥さんになりたいんです。でも最近は残業があつて10～12時に帰ることが多くて...学生時代によく考えて、定時で帰れる仕事にすればよかったなと思うことがよくあります。将来、結婚して子育てもあるから事務にしておいたほうがよかったかも（営業ではなく）。プライベートの時間は大切だな～って思います。こういう仕事をしたいたいという気持ちだけじゃなくて、プライベートの充実についても考えたほうがいいと思う。」と気持ちを吐露していた。さらに小グループに分かれての質問タイムでもプライベートの時間をしっかりとることの重要性を説明した後、藤井さんは「今は仕事を続けたいか悩んでるんだよね。結婚したら今の状態で仕事は続けられないから（彼氏は石川県にいて遠距離恋愛をしている）...もしかしたら社内で事務に移れるかもしれないけど、他の仕事も視野に入れてる。」と質問に答えていた。さらに続けて、「男の人はやりたいことを貫くけど、女性は両方（プライベートとやりたいこと）考える。会社に入る前にインターンをして人と仕事内容を見ておいたほうが良い」とアドバイスをしていた。就職活動イベントで「軸」の設定を相談していた女子学生は、「今までは授業、部活、バイトと毎日忙しくしてきたから、そんな感じで仕事をしたいと思っていたけど、結婚と恋愛が入ってくるとどうなるかわからない。」と仕事でやりたいこととプライベート（将来的な結婚を見据えて）のどちらを軸にするべきなのかを決めかねているようだった。

インタビュー調査でも将来ずっとこの仕事を続けるか聞いたところ、日本語教師として就職が決まっている堺さんは、結婚をして仕事をやめる可能性を示唆した。ただ、結婚をしても仕事を続けたいという意識はあるようだったので、子どもができたらどうするか聞いたところ、「子供ができたら、そうですね、いったん休みたいですね。」との返答だった。似たように市役所での就職が決まっている佐藤さんも、「私はいろんなことを、二つの充実してることを一緒にどっちもバランスよくやっていくっていうのが難しく、だから大学の勉強とサークルと、どっちもじゃあやっていこうってなったときに、結局どっちかに比重が寄っちゃったので、おうちのことで、自分のお仕事と、どっちもちゃんと満足いく感じでできるかと言われると、あんまり自分がそんなちゃんとできているイメージがなくて、かといって辞めるかといわれたらもったいないなという気もしますし。休める限り休めるのであれば、せつかく市役所に入ったので、休める限りは休めばいいのかとは思っています。」と家事や育児が将来自身の責任になる事を感じ、仕事との両立について考えている。一般職で事務の仕事が決まっている吉田さんは、「育休取れますか。」とか「残業ありますか。」といった質問を面接官に聞くと、育休は取れること、残業は時期によるがほとんどないと教えて

くれたと言っていた。続いて面接官の方から、子どもが熱がでたときに早くあがれること等についても話してくれたと言っていた。

このように女子学生は結婚と出産というライフイベントが起こることで自分の仕事の仕方が変わることを意識している。しかし、男子学生にはライフイベントと仕事の関係は顕著に見られなかった。就職活動イベントにパネリストとして参加した三井さん（男性）は、2016年3月時点では愛知県で学校の先生をしているが、3月でやめて2016年4月から石川県でゲストハウスを起業することになっている。学生の時と比べて仕事を始めてからどんな点が変わったかを聞かれ、「何をしたいかよりもどう生きたいか」に焦点を置くようになったと答えたが、その後配偶者の話になり、「妻はリクルートで営業成績トップを取るようなキャリアウーマンだったんですけど、4月から一緒に石川県に来ることが決まっていて、最終的には能登で自給自足の生活がしたいと言っているんです。だから、価値観は変わるんです。」と言っていた。三井さんの配偶者から話を聞いたわけではないので、やや飛躍するかもしれないが、夫が仕事を変えるのに合わせて仕事をやめて付いてくるようである。三井さんは「価値観は変わる」と配偶者の価値観が自然と変わったような表現を使っていて、三井さん自身の仕事に関する決断が（石川県で起業すること）配偶者の仕事の仕方を変えたとは思っていないようである。

インタビューに答えてくれた鈴原さんも、仕事をやめることについて面接で話が出なかったですか、という質問に対し、「仕事を辞めるってことを話した記憶はないですね。自分も熱意が当時すごく高かったので、辞めるという選択肢は考え付きませんでしたし。いやもう過労死寸前でもやってやるっていう感じだったので。まあ激務だってことは僕もそうですし、向こうも分かってましたから、あまりそういったことは問題にしませんでしたね。」と答えている。また、鈴原さんは質問としては出なかったものの、面接官に公務員の激務についてコメントを求められている。

調査者：じゃあその仕事量が多い、とか、長時間労働に関する話もなしですか、暗黙の了解で、みたいな。

鈴原：それは出ましたね。たとえばもう3日ぐらい帰ってないかもしれない、とか。週に1回は徹夜の日があるよ、寝てないで次の日も仕事する日あるよという話はされてましたね。面接の時点で、それできますよね？みたいに求められはしない。あるよというふうには向こうからぼそつと言われて示唆されるんですね。でも僕の方もああ、まあ、そうですね、それもやりがいの一つですよ、みたいな感じですので、肯定的な受け答えになるんですね、どうしても。え、そうなんですか、とかそれはちょっと体調とかどうですかとか、あまり否定的な方向にはいかなかったんですね。

調査者：そっか。それは心配なかったですか、長時間になっても、いま、寝ないでもやって言ってたけど。

鈴原：全く問題なかったですね。それで政策が出たり、国会で法案が通ったりするのは本当嬉しいことだと思っていたので。それが僕（は）他の学生と考え方（が）違うのかも申しないですけど。仕事で死んでもいいかなぐらいの気持だったんで。

この返答で見られるのは、家庭については念頭にないということである。同様に市役所での勤務が決まっている坂下さんも仕事量が多いということを確認しており、それでもすべてこなすつもりだと言っている。家庭と仕事の両立について鈴原さんに聞いたところ、「職員の方を見ても結婚されている方、けっこういますから、少なくないと思ってたので、何らかの形でまあ結婚は出来ると思ってますし、そこで家庭と仕事のバランスの取り方も分かってくるんだろうなという風に思っていました。」と将来なんとなくできるだろうと仕事選びの時点であまり考えていないことがわかる。さらに突っ込んで転勤の有無や単身赴任の可能性を話し、希望する相手には専業主婦を希望するか尋ねたところ、「そうですよね、キャリアを追求する女性だとどうしてもなかなか難しいとは思うので。例えばずっと金融とか銀行とかで働きたいです、ずっと勤め上げたいですみたいな感じのタイプの方だと、なかなかついてきてくれないかなっていうのはありますね。」と答えていた。鈴原さんは考えは先進的なようで、逆に配偶者がキャリアで海外赴任がある場合には付いていくかという問いには、「相手が主体ってなって（主体となって）動くとってなると、僕の場合もポストによるかなと思うんですね。重要な管理職クラスになってきた場合ですと、部下がいたり重要な案件があったり、っていうふうなのがありますので、そういった場合だと難しいかもしれないんですけど、比較的こう、末端というか、という場合ですと、むこうについていくみたいな形もあるかなと思ってます。」と言っていた。

公務員になることが決まっている鈴木さんは、積極的に家事や育児に関わりたと言っていた。ただし、自身と妻になる人の収入は同程度であることを希望し、相手の方が給料が多い場合に家事をすべて押し付けられるのは嫌だと言っていた。また女性のパートナーの転勤について聞いたところ、女性に単身赴任してほしい、自分は転勤がほとんどないから子供は僕といた方がいいと考えていると、解答した。ここでも男性は、自分中心のキャリアデザインを行っているように受け取れる。

市役所で働く坂下さんに育休を取るか聞いたところ、「一般的にいうと給料は僕の方が高いと思うので、育休は相手に取ってもらいたい。」と言っていたが、「もし奥さんがキャリアで僕より給料が高かった場合は、僕が育休を取ります。」と言っていた。

この傾向は統計的データからも見えてくる。「仕事に専念したいので、家事・育児は半々に分担してほしい」という文に、ややそう思う・そう思うと答えた女性は 61 人中 33 人で、14 人はどちらともいえない、13 人はあまりそう思わないと回答している。仕事も家庭も両立させたいと思っている女性は（ややそう思う・そう思う）、61 人中 50 人もいる。これらのデータは、男性にも家事に携わってほしいという気持ちが見え隠れするだけでなく、仕事をしていても女性は家事・育児からは逃れられないことも示唆

仕事に専念したいので、家事・育児は半々に分担してほしい。

	性別		合計
	男性	女性	
全然そう思わない	1	1	2
あまりそう思わない	1	13	14
どちらともいえない	0	14	14
ややそう思う	4	29	33
非常にそう思う	1	4	5
合計	7	61	68

家庭も仕事も両立させるよう頑張りたい。

	性別		合計
	男性	女性	
全然そう思わない	0	2	2
あまりそう思わない	0	4	4
どちらともいえない	0	5	5
ややそう思う	3	28	31
非常にそう思う	4	22	26
合計	7	61	68

お互いに仕事は大切だが、いざという時は女が家を守るべきだ。

	性別		合計
	男性	女性	
全然そう思わない	0	5	5
あまりそう思わない	2	12	14
どちらともいえない	2	24	26
ややそう思う	3	14	17
非常にそう思う	0	5	5
合計	7	60	67

家は自分が守るから、相手には外でしっかり働いてほしい。

	性別		合計
	男性	女性	
全然そう思わない	3	3	6
あまりそう思わない	3	22	25
どちらともいえない	1	17	18
ややそう思う	0	11	11
非常にそう思う	0	6	6
合計	7	59	66

している。「いざというときは、女が家を守るべきだ。」という文に対しては、60人中19人が賛成し、24人がどちらともいえない、17人が反対の意見を持っていた。どちらともいえないというどっちつかずの回答も含めると、半数以上がいざとなったら家庭に入るという覚悟があると言えるだろう。さらに、「家は自分が守るから、相手には外でしっかり働いてほしい」という文に対し、男性で賛成の意思を示した人は一人もいなかったのに対し、女性では17名が示した。

4-2. 仕事に求めるもの

仕事に求めるものは、インタビューや観察時には、女性、男性に関わらず「やりがい」が最も頻繁に出てきた概念だった。次に多かったのは「収入」である。これから仕事探しを始める3年生が参加した就職活動に関するイベントでは、収入をどれくらい考慮すべきか質問があり、パネリストは「とても重要だ。」と答えていた。

市役所で働く坂下さんは市役所が育休等に寛容なことは認識していると答えたが、それが市役所に就職したいという決め手にはならなかった。

アンケート調査の回答でも、男女間で仕事に求めるものに差が出たのは、「自己裁量で仕事ができる」のみで、女性の方が自己裁量を好む傾向にあった。男女差が出るのではないかと予想された「転勤がない」、「仕事と家庭が両立できる」、「男女差別がない」といった項目で有意な差が見られなかったのは興味深い。

高収入

	性別		合計
	男性	女性	
全く重要ではない	0	1	1
あまり重要ではない	1	2	3
そこそこ重要である	5	27	32
とても重要である	1	24	25
合計	7	54	61

労働時間が短い

	性別		合計
	男性	女性	
全く重要ではない	0	1	1
あまり重要ではない	3	9	12
そこそこ重要である	2	27	29
とても重要である	2	16	18
合計	7	53	60

転勤がない

	性別		合計
	男性	女性	
全く重要ではない	1	4	5
あまり重要ではない	1	5	6
そこそこ重要である	1	15	16
とても重要である	2	21	23
合計	5	45	50

長期雇用の保障

	性別		合計
	男性	女性	
全く重要ではない	0	2	2
あまり重要ではない	1	3	4
そこそこ重要である	1	17	18
とても重要である	4	27	31
合計	6	49	55

自己裁量で仕事ができる

	性別		合計
	男性	女性	
全く重要ではない	0	1	1
あまり重要ではない	5	8	13
そこそこ重要である	0	31	31
とても重要である	2	17	19
合計	7	57	64

知識・技術が身につく

	性別		合計
	男性	女性	
全く重要ではない	0	1	1
あまり重要ではない	1	2	3
そこそこ重要である	3	21	24
とても重要である	3	25	28
合計	7	49	56

人間関係が円満である

		性別		合計
		男性	女性	
合計	全く重要ではない	0	1	1
	そこそこ重要である	1	8	9
	とても重要である	2	18	20
		3	27	30

仕事が面白い

		性別		合計
		男性	女性	
合計	全く重要ではない	0	1	1
	あまり重要ではない	0	4	4
	そこそこ重要である	1	7	8
	とても重要である	3	20	23
		4	32	36

仕事と家庭が両立できる

		性別		合計
		男性	女性	
合計	全く重要ではない	0	1	1
	あまり重要ではない	0	2	2
	そこそこ重要である	2	14	16
	とても重要である	4	22	26
		6	39	45

男女差別がない

		性別		合計
		男性	女性	
合計	全く重要ではない	0	1	1
	あまり重要ではない	1	3	4
	そこそこ重要である	5	16	21
	とても重要である	1	20	21
		7	40	47

実力主義である

		性別		合計
		男性	女性	
合計	全く重要ではない	1	1	2
	あまり重要ではない	1	15	16
	そこそこ重要である	5	28	33
	とても重要である	0	8	8
		7	52	59

土日が休み・有給休暇

		性別		合計
		男性	女性	
合計	全く重要ではない	0	1	1
	あまり重要ではない	1	2	3
	そこそこ重要である	0	15	15
	とても重要である	4	16	20
		5	34	39

4-3. 身だしなみ

就職活動に関するインタビュー調査中に OB・OG や友達からどんなアドバイスを受けたのか聞いたところ、女性の多くは身だしなみについて言及していた。特に女性は就職活動において、「見栄え」が重要であることを示唆している。一般職の事務として働くことが決まっている吉田さんは就職支援室が開催するイベントに行ったところ、OG から髪は後ろで結ぶべきで、横にだらんとたらしはいけないこと、メイクは濃すぎないこと、ストッキングは常に予備を持っているべきこと等、容姿に関するアドバイスを受けたと語っていた。東京で日本語を教える堺さんは、「そうですね。何でしょう、こう、見てて、化粧そんなしてないなって人を見ると、何でしょう、あのこれは私の感覚なんですけど、んんー。あんまり身なりに気を使わないと、何でしょう、ちょっと就活に対してやる気ないのかなっていう風に見えるような気がして。男の人でもあんまり髭剃ってなかったら、いやいやみたいな、ダメでしょうみたいな感じになるのと同じだと思いますね。」と言っていた。堺さんは男の人でも身なりに気をつけるのは同じだと示唆しているが、身なりに関しては女性に対してより厳しいルールがあるようである。公務員として就職が決まっている堺さんは後輩へのアドバイスを聞いたところ「ハイヒールを履いて就活するのは疲れるんです。ジョブフェアで足が痛いと思ってゆっくり歩いていると呼び止められるし、少しあるイスには私と同じような女子学生がいっぱいいいて、座れない。覚悟していったほうがいい。」と言っていた。また、就職活動イベントに参加した藤井さんは東京で就職活動をするにあたり、「東京で就職活動している人は違う。みんなピリピリしているし、質問がありますかって人事の人が聞くとすぐに手が上がる。きれいな女の人も多いしね。」と、東京にいるきれいな女性の容姿が地方出身の女性をおじけづかせる要因になる事を示唆している。

容姿に気を使うことは求められるが、アンケートのデータでは、見た目が理由で就職活動、あるいは面接で差別を受けたと感じている人はいなかった。

4-4. 面接

面接を含め就職活動中に女性に対して差別があったかという質問に対しては、インタビュー調査に参加したすべての調査協力者、男女ともが「なかった。」と答えた。坂下さんは、公務員という職業では、男女共同参画の流れで女性の就職が進んでおり、女性に対して追い風で、男性に対して逆差別のようなものがあると言っていた。アンケート調査においても 21 人中 15 人はどんな形の差別も就職活動中にはなかったと答えている。就職活動中の性差別に関しても 15 人が「ほとんどない」、あるいは「少し」を選択している。ただし、「女性は一般的に女性だからという理由で就職活動で差別を受けている」という文に対しては、14 人の女性のうち 4 人が「ややそう思う」、あるいは「非常にそう思う」を選択していて興味深い。

就職活動において、どの程度の偏見や差別があなたにとって障害になったと思いますか。

		性別		合計
		男性	女性	
	ほとんどない	4	7	11
	少し	1	3	4
	どちらともいえない	0	3	3
	かなり	2	0	2
	非常に	0	1	1
合計		7	14	21

面接において、どの程度の偏見や差別があったと思いますか。

		性別		合計
		男性	女性	
	ほとんどない	4	8	12
	少し	2	1	3
	どちらともいえない	1	4	5
	非常に	0	1	1
合計		7	14	21

私は女性だから・男性だからという理由で就職活動中に差別を受けた。

		性別		合計
		男性	女性	
	全然そう思わない	7	5	12
	あまりそう思わない	0	6	6
	どちらともいえない	0	2	2
	ややそう思う	0	1	1
合計		7	14	21

私は女性だから・男性だからという理由で面接で差別を受けた。

		性別		合計
		男性	女性	
	全然そう思わない	7	5	12
	あまりそう思わない	0	6	6
	どちらともいえない	0	2	2
	非常にそう思う	0	1	1
合計		7	14	21

女性（男性）は一般的に女性（男性）だからという理由で就職活動で差別を受けている。

		性別		合計
		男性	女性	
	全然そう思わない	5	4	9
	あまりそう思わない	2	4	6
	どちらともいえない	0	2	2
	ややそう思う	0	2	2
	非常にそう思う	0	2	2
合計		7	14	21

インタビュー調査で詳しく面接の様子を聞いていくと就職活動中の学生は見えない（あるいは見えづらい）差別に対して blind（盲目）である可能性が出てきた。面接官の構成について聞くと1回目や2回目の面接には女性も入っていたようだが、最終面接に近くなると徐々に「重役であろう中年の男性社員」になっていったようである。事務職に内定が決まっている吉田さんは、「1回目の面接は面接官3人すべて女性でした。30歳くらいで私と年齢も近くて、気分が楽でとても話しやすかった。」と面接官に女性がいたことのポジティブな点を話しており、公務員に内定が決まっている佐藤さんも、「いろいろな人を見てしゃべるようにしてて、ずっとその人のことみてしゃべるのつらかったので、いろんな人のこと見ながらしゃべってたんですけど、笑顔でうん、うんと話しやすい空気を作ってくれたのはその女の方だったので、いてくれてよかったなって。」と言っていた。それに対し、男子学生からは面接官に同性がいることについての発言はなかった。逆に東京で公務員の試験を受けた鈴原さんは、会場で案内してくれる女性はいたが、面接官に女性は一人もいなかったと言っていた。面接官が男性だったことで「男性の職場」なのかという印象を受けたようだった。面接に来ていた人のうち、女性が4割ほどだっ

たと鈴木さんは教えてくれたが、女性はどんな印象を受けたのか興味深い。同様に鈴木さんもどんな点で女子学生に壁になるようなことがあるか聞いたところ「1次や2次面接では女性の面接官もいるが、3次面接ではほとんどが男性で、重役っぽい人が多いので、女性だと威圧感を感じるのではないかなと思います。」という返答だった。最初の面接がすべて女性だった吉田さんも同様のことを言っており、進むにつれて面接官は男性になり、質問が厳しくなると言っていた。

面接官は年が比較的上の人だったのかと聞くと、佐藤さんは、「だいぶ、上の、部長とかそういうクラスの方だったのかなと。一人だけ申し訳程度に女性が入ってたんですけど。たぶん、本当に入ってるだけなのか分からないですけど、女性からの質問は、短所何ですか、というその一個だけで。後はだいたいその部長クラスのおじさま方が質問を回すっていう感じで。」と女性の面接官はあまり質問をしなかったといている。企業で就職が決まっている堺さんは15社くらい面接を受けたといていたが、面接官の割合は男性が8に対して女性が2だと言っていた。

面接の内容に関しては、女性差別的な発言はほとんどなく、表向き差別はないように見えるが、事務職に内定が決まっている吉田さんは面接で結婚・出産後、仕事はどうするつもりかを聞かれたと言っていた。吉田さんは仕事を続ける意向だったため、そのように伝えたが、インタビューでは吉田さんの友達の話になり、仕事を辞めるつもりだった友達でも、続けたいと嘘をつかなければならなかったと言っていた。

4-5. 大学の評判

インタビューを行った学生6名のうち、5名が北陸の大きな大学の出身だった。地元北陸で就職する学生が多く、その女子学生が女性に対する差別を感じなかったのは、大学の評判が影響しているのかもしれない。企業によっては学生の出身大学によって雇う、雇わないを決めているところもあるようである（石渡 2015）。北陸の大きな大学は地元では有名校であり、就職率も高い。女性として差別を受けなかった・感じなかったのは、大学の評判が影響していたのではないだろうか。

逆に東京の官公庁で就職活動を経験した鈴木さんは、面接で落ちた理由について聞くと、Ph.D.を持っているような高学歴の人がいたことに加え、大学の評判についても語った。「これは学歴差別とは違いますけど、どうしても（北陸の大きな）大学ですと、なかなか霞が関の職員の方々がどういうふうに思われるのかっていうような声がなかなか来ない。（東京の有名）大学とかですと、職員の方が講演に来たり、ゼミの講師として授業に呼ばれて来るみたいなことがひんばんにあるので、なかなか意見の交換ができるんですけど、なかなかこちらですとそういった機会もありませんでしたので、まあそういった意味で現場の方々との意識をある程度共有するっていうことが、そこまで僕は進んでいなかったなっていうふうに思います。」ここで見られるのは、地理的な問題だけではなく、大学の評判とネットワークの関係である。

4-6. サークル・部活動

インタビューに答えた学生のほとんどがサークル・部活動、あるいは留学しており、それが就職活動での「セールスポイント」にできたこともいい方向に働いたようである。面接でよく聞かれる質問として「あなたの長所は何ですか。」や「あなたが学生時代一番頑張ったことは何ですか。」等があるが、インタビュー調査への参加者たちは、サークルや部活動でリーダーシップを取った経験や留学に行ったことをアピールに使っていた。大学の評判と同じように、サークル・部活での活動が女性と男性間の不平等の差を緩和したのではないかと推測する。

統計データでもサポートは男女間に有意な差はなかったし、サポートのある人とない人の中には、仕事を見つける難しさにおいて、有意な差は見られなかった。つまり、仕事探しを助けてくれる人がいてもいなくても、仕事を見つける難しさの度合いはそれほど変わらないということである。

大学の知り合いは、仕事探しの時に助けてくれる。

	性別		合計
	男性	女性	
あてはまらない	0	1	1
どちらともいえない	1	2	3
あてはまる	3	10	13
とてもよくあてはまる	3	1	4
合計	7	14	21

高校の友達・知り合いに仕事の情報を教えてくれる人がいる。

	Q1 あなたの性別は		合計
	男性	女性	
全くあてはまらない	1	3	4
あてはまらない	1	3	4
どちらともいえない	1	3	4
あてはまる	3	3	6
とてもよくあてはまる	1	2	3
合計	7	14	21

4-7. 情報収集

先行研究では、情報収集の一環として OB・OG の訪問、つながりが就職活動にいい影響を及ぼすと言っていることは先に書いたとおりである。以前は OB・OG とのつながりは部活動やサークルに入っている学生の特権のようなものだったかもしれないが、最近はそうではないようである。大学の就職支援室は OB・OG の情報を持っており、学生はどの学部・学科出身の先輩がどんな会社に就職したのか簡単に閲覧することができるし、OB・OG がメールアドレスを載せていることもあるため、学生は自由に連絡を取ることもできる。また、就職支援室が開催する説明会に OB・OG が招かれることも多く、就職活動中の学生はだれでも説明会に参加できるため、部活やサークルに入っていなくても OB・OG とのつながりは作れる。

希望する就職先に OB・OG がいない場合、様々なネットワークを駆使するようである。公務員になることが決まっている鈴木さんは、志望先の場所がユニークで大学には同じ就職先を希望する人はいなかったが、サークルの友達の年上の彼女の友達が鈴木さんが希望する就職先に合格をしたが行かなかったということで、何度かお話をしたことがあると言っていた。加えて、就職浪人していた人と合同説明会で知り合いになり、情報交換をしたとも言っていた。また、後輩へのアドバイスを聞いたところ、同じところに就職した OB・OG から情報収集を求めることを挙げていた。

インターネットでの情報収集の状況も尋ねたが、インタビュー調査に参加した学生はあまり使っていないようだった。希望する就職先の情報をウェブサイトを見て得ることはあっても、個人が運営するブログ等での情報はあまりしていないようだった。

5. 結論

本研究ではあからさまな形の女性に対する差別というのは見られなかったが、仕事選びに際して女性は家事や育児のことをすでに考えているのに、男性はそれを考えていないということが男女で大きく異なる点であった。結婚をしたり子供が生まれたときに家事や育児の責任が女性に偏ることは男女ともに認識しており、特に女性は家の外と内で 2 つ仕事を持つことになることがよくわかっているようであった。よって仕事を辞めたり、キャリアをあきらめたりする準備はできているし、両立できるような仕事探しをしているのである。

インタビューや観察に参加してくれた調査協力者は、北陸地方では名のある大学出身であり、多数が公務員としての就職が決まっていたため、女性に対する差別が見えにくかったかもしれない。様々なレベルの大学の女子学生を比べたり、サークル・部活動に入っている学生と入っていない学生を比べたりすることで、就職活動の経験がどのように異なるかを調査することは、今後必要であろう。

調査参加者は差別だとは認識していないが、女性が就職活動中に感じている障壁の一つは面接官の多くが男性であることである。男性に囲まれて面接の受け答えをすること

にプレッシャーを感じる女子学生もいるようである。真に重要なのは、女性の社会進出が進み重役に女性がついてそういった女性が面接官として参加することであるが、短期的な解決策としては、面接官に女性を入れ、女性の視点が組み込まれた面接をすることが必要なのではないだろうか。

参考文献

- 青島祐子. 2007. *女性のキャリアデザイン：働き方・生き方の選択*. 東京都：学文社.
- 石渡嶺司. 2015. *女子学生はなぜ就活で騙されるのか：志望企業全滅まっしぐらの罠*. 東京都：朝日新聞出版.
- 女子就活ネット. 2015. *2017年度版 ホンネの女子就活：センパイたちが就活中に悩んだこと*. 東京都：実務教育出版.
- ツカダマモル. 2013. *就活女子*. 京都市：ナカニシヤ出版.
- 筒井美紀. 2010. 「中堅女子大生の就職活動プロセス：活動期間と内定獲得時期の規定要因」. *大卒就職の社会学：データから見る変化*, edited by 荻谷剛彦 and 本田由紀. 東京都：東京大学出版.
- 深尾節子. 1994. *女子学生のための面接試験の答え方*. 東京都：ナツメ社.
- 山口ひろみ. 2015. *長く働きたい女子のための就活必勝塾 2015～2016*. 経営塾.

Appendix A : 資料 3-1 アンケート様式 (大学生対象)、

次の質問に答えてください。

1. あなたの性別は?

男性 女性

2. あなたは現在金沢大学の何年生ですか。

3年生 4年生

3. 金沢大学在学中、サークル活動に参加していましたか。

はい いいえ

4. エントリーシートは何枚送りましたか。

0-10 11-20 21-30 31-40 41 以上

5. 会社説明会には、何回くらい参加しましたか。

0-3 4-6 7-10 11-20 21 以上

6. 面接は何回受けましたか。

0回 1-2回 3-4回 5-10回 11回以上

7. 現時点で、職場から内定をもらっていますか。(「はい」と答えた人は 8 へ、「いいえ」と答えた人は 11 へ)

はい いいえ

8. 仕事は総合職ですか、一般職ですか。

総合職

一般職

9. 仕事を見つけるのはどれくらい難しかったですか。

全然難しくなかった あまり難しくなかった そこそこ難しかった とても難しかった 極めて難しかった

10. 現在内定している仕事についてお聞きします。次の文にどれくらい同意できるかお答えください。

	全然そう思 わない	あまりそう思 わない	どちらともい えない	ややそう思 う	非常にそう思 う
内定している仕事の条件は素晴らしい。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
したいと考えていたことの多くが内定した仕事にある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
就職活動をやり直せるなら、また同じ就職活動がしたい。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

11. 次の項目はあなたにとって会社選びの際に、どれくらい大切ですか。

	全く 重要ではない	あまり 重要ではない	そこそこ 重要である	とても重要である	きわめて 重要である
高収入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
労働時間が短い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
転勤がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
長期雇用の保障	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自己裁量で仕事ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知識・技術が身につく	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
人間関係が円満である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

仕事が面白い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
仕事と家庭が両立できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
男女差別がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
実力主義である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
土日が休み・有給休暇	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

12. 次の文にどれくらい同意できるか教えてください。

	全然そう思 わない	あまりそう思 わない	どちらともい えない	ややそう思 う	非常にそう思 う
自分は少なくとも他の人と同等の価値がある人間だと思 う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分にはいいところがいくつかあると思う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
全体的に見て、自分は成功できると感じる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は他の人と同様に様々なことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私には誇れる部分が少ないと感じる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は自分自身に対してポジティブである。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
全体として、自分自身に満足している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
もっと自分に自信があればいいと思う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分が使えないやつだなあと思うことがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分には全然いいところが無いと思うことがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

13. 次の文にどの程度あてはまるか教えてください。

	全くあては まらない	あてはまら ない	どちらとも いえない	あてはまる	とてもよく あてはまる
金沢大学には私が抱える問題を解決してくれる人がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
急に1万円が必要になったら、金沢大学の誰かに貸してくれるよう頼める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
重要な決断を下すときに、アドバイスをくれる人が金沢大学にいる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
金沢大学の知り合いは、仕事探しの時に助けてくれる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
何か重要なことを頼めるほどの知り合いは金沢大学にはいない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
もし必要であれば、高校の友達に簡単なお願いごとを頼める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
高校の友達・知り合いに仕事の情報を教えてくれる人がある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

25

14. 就職活動において、どの程度の偏見や差別があなたにとって障害になったと思いますか。

ほとんどない 少し どちらともいえない かなり 非常に わからない・当てはまらない

15. 面接において、どの程度の偏見や差別があったとおもいますか。

ほとんどない 少し どちらともいえない かなり 非常に わからない・当てはまらない

次のページに進んでください。もう1ページあります。

16. 次の文にどれくらい同意できるかお答えください。

	全然そう思 わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	ややそう思 う	非常にそう 思う	わからない
私は女性だから・男性だからだという理由で就職活動中に差別を受けた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は女性だから・男性だからだという理由で面接で差別を受けた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
女性・男性は一般的に女性・男性だからという理由で就職活動で差別を受けている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は外見のせいで就職活動で差別を受けた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は外見のせいで面接で差別を受けた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

17. 次の文にどれくらい同意できるかお答えください。

	全然そう思わ ない	あまりそう思 わない	どちらともい えない	ややそう思う	非常にそう思 う
仕事に専念したいので、家事・育児は半々に分担してほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家庭も仕事も両立させるよう頑張りたい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お互いに仕事は大切だが、いざという時は女が家を守るべきだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家は自分が守るから、相手には外でしっかり働いてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ありがとうございました。

Appendix B : 資料 3-1 アンケート様式 (専門学校生対象)

職業意識に関する研究

番号_____

名前_____

— お願い —

この調査は、あなたの仕事に対する心情や考えについてお聞きします。得られた情報は、若者の職業意識を理解することために使われます。

調査の結果はすべて統計的に処理され、回答者個人のデータを公開したり、他の目的で使用したりすることは一切ありません。みなさんのプライバシーは完全に守られますので、調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いします。 研究代表者 伊藤大将

1. 現在、サークル活動等に参加していましたか。

はい いいえ

2. この学校に入ると決断することは、どれくらい難しかったですか。

全然難しくなかった あまり難しくなかった そこそこ難しかった とても難しかった 極めて難しかった

3. 次の文にどれくらい同意できるかお答えください。

	全然そう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	非常にそう思う
仕事に専念したいので、家事・育児はパートナーと半々に分担してほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家庭も仕事も両立させるよう頑張りたい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お互いに (パートナーとあなた) 仕事は大切だが、いざという時は女が家を守るべきだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家は自分が守るから、パートナーには外でしっかり働いてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4. 次の項目はあなたにとって仕事場を選ぶ際に、どれくらい大切ですか。

	全く 重要ではない	あまり 重要ではない	そこそこ 重要である	とても重要である	きわめて 重要である
高収入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
労働時間が短い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
転勤がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
長期雇用の保障	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自己裁量で仕事ができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知識・技術が身につく	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
人間関係が円満である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
仕事が面白い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
仕事と家庭が両立できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
男女差別がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
実力主義である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
土日が休み・有給休暇	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国家資格がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

裏にも質問があります。

5. 次の文にどれくらい同意できるか答えてください。

	全然そう思わ ない	あまりそう思 わない	どちらともい えない	ややそう思う	非常にそう思 う
自分は少なくとも他の人と同等の価値がある人間だと思 う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分にはいいところがいくつかあると思う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
全体的に見て、自分は成功できると感じる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は他の人と同様に様々なことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私には誇れる部分が少ないと感じる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
私は自分自身に対してポジティブである。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
全体として、自分自身に満足している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
もっと自分に自信があればいいと思う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分が使えないやつだなあと思うことがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自分には全然いいところが無いと思うことがある。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

6. 以下の文章に続く言葉を、思いつくままに書いてください。

<例> 花は、_____。

→ 花は、野に咲く花が好きです。

スポーツ_____。

→ スポーツで一番好きなのはサッカーです。

(1). 自分の身近な人は、私の将来の仕事に対して、

(2). 私にとって、仕事につく目的は、

(3). 私にとって、将来の仕事は、

(4). すべてのことが可能だとしたら、私が本当にやりたい仕事は、

7. 次の2つの質問に合う答えを、右の四角の中から選んで、数字で答えてください。

① あなたが理想とするキャリア人生は？ 【 】

② 現実になりそうなキャリア人生は？ 【 】

(1) 結婚ないし出産まで働き、その後は仕事はしない。

(2) 結婚ないし出産まで働き、子育てがひと段落したら再び働く。

(3) 結婚後、子供は持たず働き続ける。

(4) 子育てと仕事を両立させながら仕事を継続する。

(5) 結婚・出産（してもしなくても）関わりなく、働き続ける。

(6) その他：()

* その他を選んだ場合は自由に記述してください。